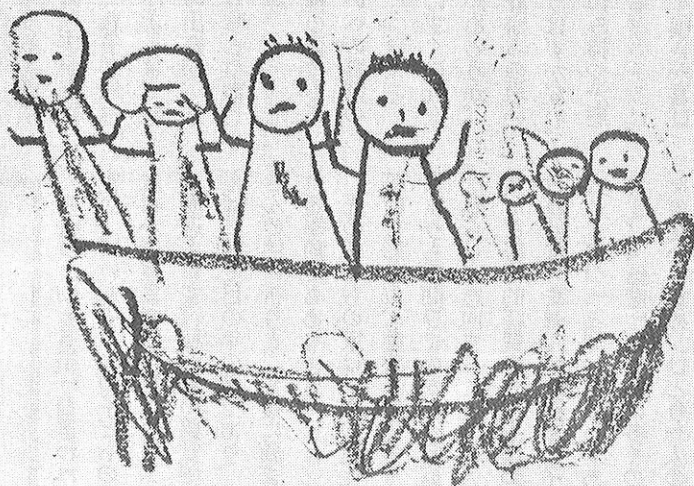


光の子

発行／社会福祉法人 光の子どもの家
 編集／光の子 編集委員会
 〒349-11 北埼玉郡大利根町砂原277
 TEL／0480-72-3883
 振替／東京3-128022
 印刷／(株)ドモン企画



メリー クリスマス!!

2才 かわかみ とおる

クリスマスを迎える待降節（アドベント）にはいる。

待つということが少しでも長びくと、いら立つわれわれであるが幾世紀にも亘り約束されたことをじっと待ち続けたイスラエル人の信仰とそれに基づく忍耐とには、深く敬意を表するものである。

神が約束の主であり絶対に違ふことのない神への信頼のゆえに、イスラエル人は言いようのない苦難や困難にあえぎながら、救主の到来を待ち続けたのである。

彼らにはどのような状況にあっても希望があり、夢があった。そして耐え忍ぶことができた。

老人たちは夢をみ、若者たちは幻をみる（ヨエル二・28）神にあつて生き甲斐を与えられ、生き生きとした生を営んだ。

今日のわれわれ老いの生き方や死について学び（最近はこのような書物が多く出版される）あつた人生を弁え知ったかのごとくあ

アドベントに思う

（ゼカリヤ・九・九）

理事長 福島 勲

っても、なお心の裡には寂寥をおぼえ死への不安を抱くのである。

現代人に夢はあるのか。若者の教育を論じ老人の福祉にとりくんでも、国全体に夢や幻を提示できるのか。政治の貧困、個人の人格の陶冶の欠如を感じざるを得ない。省みて、われわれ宗教界も正しく人心を収攬できず、夢を与えることができていない。

下からのものでなく、上から与えられる、希望と夢こそ真実力あるものである。

神の最大の賜物なるキリストの降誕の意義を、改めて心の真底から味わい感じ悟りたい。

今日のわれわれには、イエスの誕生と、イエスの死は切り離しては考えられない。それらは相互に関連して意味を強めあっていることを知っている。

キリストの誕生は、十字架の死によって意味づけられる。

イエス誕生の背後には神の嘆き

四度目の年の瀬

施設長 今関 公雄

(人の罪に対する)がある。
イエスはエルサレムを眺めて嘆き悲しまれた。(マタイ二三・37)
放蕩息子のおとえでみるように
ここでは神の嘆きという字が直接
用いられていないが、息子が帰っ
てきたときの父の喜びようは、裏
返せば、いかに息子の出奔が、父
なる神の悲しみであり嘆きであっ
たかということである。

神の嘆き、それは神の愛でもあ
る。罪への嘆きは救いへの喜びの
おとずれである。

地上のだれの誕生にすぐに死を
結びつけて喜ぶものがあるのか。
人の死が全人類の罪からの救い
との関わりでありようはずがない。
キリストにあってのみ持つ矛盾
とも思える喜びである。

喜びが嘆きであり、嘆きが喜び
である。
われわれがイエスの誕生を待つ
ということは、神の愛を、神の嘆
き(人類の罪への)を知ることだ
である。したがって、今日のわれ
れには、アドベントの心備えはレ
ント(受難節)のそれと変わりな
いものとも言えよう。

「石の上にも三年」と言われま
すが、早いもので光の子どもの家
もおかげさまで四度目のクリスマ
スを迎えます。私どもの感覚で言
えば、四度目の年の瀬であり、皆
さんの熱い祈りとご支援に励まさ
れる季節でもあります。

光の子どもの家は、その誕生を
苦難で彩られ、養育を合理性や効
率よりも手間ひまのかかる家庭的
な暮らしを志向することで、人件
費など経常的経費の負担を担わな
ければなりません。「難産の子は
大きく育つ」と聞いたことがあり
ます。「難産」を契機に多くの人
々の関心を集め、ひとり一人の子
どもを手間ひまかけて大切にしてい
く養育への共感やご理解など、
手応えある連帯とご支援の輪が拡
大しています。

そして、多くの制約や限界に、
日常的な暮らし創りのなかで克服
をめざしてとくくんでいる現場と
社会の側で連帯してくれている多

くの人々との架け橋の役割を、こ
れも制約の多いなかで「光の子」
の発行が果たそうと努力しており
ます。及ばない試みに対し、読者
からのたくさんの方々の反響と強い連帯
の輪が再生産され感謝です。

十一月三日開催の第四回感謝の
集いには、開設当初からご支援下
さっている人々や、地元関係者な
ど百数十名の方々がご参集下さり
暖かいお励ましを頂きました。

お集まりの皆さんの子どもたち
や職員たちとのお交わりのなかに
なみなみならない子どもたちへの
思いやりを目のあたりにし、三年
有余の歳月の重さと施設養育の重
要性に深く思いを致しました。

私の職責から、ぶしつけなお願
いや光の子どもの家のとりくみや
考え方などを報告にお伺いするこ
とがしばしばあります。その折に
思うことですが、光の子どもの家
の開設当初に、心配してご支援し
て下さった方々が、継続してご支

援をして下さる姿の中に、光の子
どもの家と連帯を継続し、歩みを
共にしながら、ともに育ち合っ
ていることを確認させられ、感動を
禁じ得ないことがよくあります。

五名以下の子どもの担当者を一
世帯とし二世帯と更に一―二名の
職員で一軒の家を構成して暮らす
責任担当制による家庭的養護、親
や家族親族の強い協力を求めてい
く養護方法を今後とも堅持してい
きたいと願っています。職員一名
に対して六名の子どもの担当させ、
それを補う職員は全く配慮されて
いない公的な基準のなかで、これ
を進めていくことは至難です。就
学前の幼稚園教育の保障、三年後
には高校進学保障も必要になり
ます。そして、子どもたちが社会
で自立して生活を創っていくよう
になり、実家のような関わりを
求められるまで続けていかなけれ
ばなりません。人との関わりぬ
くもりを、この子どもたちに是非
とも伝えたいと祈りながら・・・
今後も引き続き、物心両面で私
たちの欠けを補って下さるご支援
を表心からお願ひ致します。

俳句エッセー

餅と俳句

黛 執(俳人)

年末の風物詩の最たるものは餅
搗きの風景である。

夜明けの枕元にずしんと響いて
くる餅搗きの音は、私のなつかし
い原風景のひとつである。幼こ
ろにも、行く年の終末感をそこは
かなく覚えたものだ。

有明も三十日に近し餅の音

― 芭蕉

病床に聞くや夜明けの餅の音

― 子規

夕方から夜にかけ搗くところが多

いようだが、私の家では夜明け
に搗いた。眠い眼をこすりながら
起き出すと、十間には煌々と裸電
球が灯され、蒸籠から噴き上がる

湯気の中を女たちが急がしげに立
ち働いている。庭では大臼を囲ん
で男たちが杵を振り上げている。
その原風景の中に、私はいつも父
母の姿をはっきりと蘇らせること

ができる。

餅つきや焚火のうつる嫁の貌

― 召波

餅搗くや框にとびし餅のきれ

― 素十

餅搗の水呑みこぼすあきとかな

― たかし

こうして幾日か搗くうちによう

よう空が明るみはじめる。

餅十臼搗いてあけぼの抜けたる

― 執

搗き上げられた餅は方形に裂さ
れて、餅筥に並べられる。

青かりし時より清し餅筥

― 蓼太

餅筥踏んで仏に灯しけり

― 松浜

幾日かは女たちの手で餅や黄
粉餅にされ、近所などへ配られる。

我門に来そうにしたり配り餅

― 一茶

残念なことになつた餅搗き風
景は、このころではすっかり私の
身辺から消えてしまった。

餅は赤飯とならん昔から代表
的な「晴の日」の食物であった。

ともに糯米を原料とするが、とり
わけ餅は神事行事と結びつき、そ
の起源は遠く奈良朝へ遡るとい
う。源氏物語に若干の記述が見えるよ
うだが、王朝詩歌に詠われること
はなかったようだ。月・雪・花を
主題とする古今集以後の宮廷歌人
の美意識に、餅はなんとも馴じみ
にくかったのであらう。餅が頻繁
に詠われるようになるのは、主に
俳諧が盛んになった江戸期におい
てである。貴族の美意識より、庶
民の活力の方に餅は見合ったのだ
らう。

ところで、餅から季節感が薄れ
たと嘆く人が多い。機械で量産さ
れ、餅搗きという習俗と文化を手

放した餅が、年末風物詩から遠く
なったことは確かだし、ハウス裁
培のトマトや胡瓜とおなじく一年
中どこでも売られるようになっ
た。晴の食から曇の食への移行が
餅の権威を失墜させたことも否め
ない。

だが、祝賀中の保存食として各
家庭に沢山に貯えられるのはやは
り正月だけのことであらうし、新
年の神事や行事との深い関わりを
失わない限り、餅の季節感はずる
がないであらう。周辺から餅搗きの
音が消えたことはさびしいが、餅
が本質的には以然として新年とい
う晴の場の食であることには変わ
りないのである。

鏡餅天日かつと照らしるる

― 龍太

最澄の山餅くはへたる大に逢ふ

― 澄雄

現代俳人もまた、餅を清浄無垢
のものと見て、そこに新春の山河
の荘厳を感じとっているのである。

クリスマスおめでとう

毎年私たちのクリスマスは、げきをやったり、聖書を読んだり、うたをうたったりしています。それにプレゼント交換をしたり、サンタさんからプレゼント

☆ 二年生 滋

ぼくは、クリスマスでいろいろ楽しいことをしたいです。げきをする時は、一生けんめいがんばろうと思います。ことしクリスマスをやったらハカいめです。いろいろ楽しいクリスマスにしたいです。

☆ 三年生 光子

クリスマスは、本当に楽しい日です。おめでとう。メリー・クリスマス。

マも来てくれます。わたしは毎日クリスマスだったらいなと思いましたが、でも毎日きけると、イエス様が一年で三六六才や三六五才になってしまうので、そういう考えはやめます。

クリスマス・イブにサンタさんがくるのは、本当に楽しみです。去年は早く寝てしまいましたが、今年はずいぶん早く寝た方がいんですよ。ただ、本当は早く寝た方がいんですよ。

ぼくは、ここに来てから、クリスマスの事をたくさん知りました。クリスマスは、イエス・キリストの生まれた日です。しかしキリストは、馬小屋で生まれたのです。母はマリア、父は

☆ 二年生 鷹文

ぼくのクリスマスは、とてもたのしいクリスマスです。夜、サンタクロースからプレゼントがもらえるからです。かみさまが小人にたのんで、子どもにプレゼントをつくってくれます。おりこうにしてプレゼントをまっています。

☆ 五年生 晃子

二年目は、宿屋のおかみになりました。その時は、私の担任の先生が見に来てくれました。とてもうれしかったです。今年は聖歌隊で歌を歌うか、天使長の役かどちらかをやりたいです。

クリスマスには、たくさんのお楽しみがあります。一つは、プレゼントをもらうこと。クリスマス・イブにサンタさんが来てくれます。お友だちとすごそうかんプレゼントも楽しいです。

☆ 六年生 悟

クリスマスは、イエス・キリストの生まれた日です。わたしは、病院やお家で生まれたけれど、イエス様はかい馬おけの中です。わたしは、かい馬おけの中です。わたしは、かい馬おけの中です。

クリスマス・イブにサンタさんがくるのは、本当に楽しみです。去年は早く寝てしまいましたが、今年はずいぶん早く寝た方がいんですよ。ただ、本当は早く寝た方がいんですよ。

クリスマス・イブにサンタさんがくるのは、本当に楽しみです。去年は早く寝てしまいましたが、今年はずいぶん早く寝た方がいんですよ。ただ、本当は早く寝た方がいんですよ。



—神さまからのあけいもの—

今年は、ぼくがここへ来てから三回目のクリスマスです。

毎年十一月の終わりにクリスマスまでの日まで、ページェントの練習でいそがしくなります。去年のページェントではぼくはヨセフの役をやりましたが、今年はぜひ、聖書朗読をやってみようと思います。クリスマスに雪が降ったらいいな、ページェントももっとすてきにやれたらいいなと思います。今年も素晴らしいクリスマスになりますように。

☆ 六年生 匠

わたしは、去年のクリスマス・パーティーで、こうかんプレゼントをしたことが一ばんたのしかったことです。「いぬのおまわりさん」のうたにあわせて、となりのひとにプレゼントをわたしました。わたしは、リボンのついたみどりいろのふくろをもらいました。そのふくろにせいしよとさんびかを入れて、きょう会がっこうへいっています。ことしもこうかんプレゼントをしたいです。

☆ 一年生 ペに子

ぼくは、クリスマスが楽しみです。ど

うしてイエス様が生まれた日、クリスマスという名前なのかなと思います。

ことしのクリスマスも、みんなが喜べるページェントをやりたいです。

☆ 四年生 逸郎

さんたくろうすさん、おげんきですか。いつもおれげんとありがとうございます。きょうのくりすます、とってもたのしかったです。

☆ 幼稚園年長組 萌季

ぼくは、光の子どもの家でのクリスマスは初めてです。ページェントで何をやるのかわからないけど、一生けん命やりたいです。クリスマスというのは、キリスト・イエス様が生まれた日だと、照子さんから聞きました。神様がぼく達のためにイエス様をくださったのだということ。イエス様のようになんてやさしくて、人のために何かしてあげられる人になりたいです。これからも、聖書の教えを学び、光の子らしい子どもになりたいです。

☆ 五年生 陸男

クリスマスは、イエス・キリストの生まれた日です。わたしは、病院やお家で生まれたけれど、イエス様はかい馬おけの中です。わたしは、かい馬おけの中です。わたしは、かい馬おけの中です。

☆ 六年生 悟

クリスマスは、イエス・キリストの生まれた日です。わたしは、病院やお家で生まれたけれど、イエス様はかい馬おけの中です。わたしは、かい馬おけの中です。わたしは、かい馬おけの中です。

クリスマス・イブにサンタさんがくるのは、本当に楽しみです。去年は早く寝てしまいましたが、今年はずいぶん早く寝た方がいんですよ。ただ、本当は早く寝た方がいんですよ。

クリスマス・イブにサンタさんがくるのは、本当に楽しみです。去年は早く寝てしまいましたが、今年はずいぶん早く寝た方がいんですよ。ただ、本当は早く寝た方がいんですよ。

クリスマスは、イエス・キリストの生まれた日です。わたしは、病院やお家で生まれたけれど、イエス様はかい馬おけの中です。わたしは、かい馬おけの中です。わたしは、かい馬おけの中です。

クリスマス・イブにサンタさんがくるのは、本当に楽しみです。去年は早く寝てしまいましたが、今年はずいぶん早く寝た方がいんですよ。ただ、本当は早く寝た方がいんですよ。

クリスマス・イブにサンタさんがくるのは、本当に楽しみです。去年は早く寝てしまいましたが、今年はずいぶん早く寝た方がいんですよ。ただ、本当は早く寝た方がいんですよ。

クリスマス・イブにサンタさんがくるのは、本当に楽しみです。去年は早く寝てしまいましたが、今年はずいぶん早く寝た方がいんですよ。ただ、本当は早く寝た方がいんですよ。

クリスマス・イブにサンタさんがくるのは、本当に楽しみです。去年は早く寝てしまいましたが、今年はずいぶん早く寝た方がいんですよ。ただ、本当は早く寝た方がいんですよ。

輝きのかたち

その3

池田 祐子

夜明け前。東野の朱に輝きはじめます。大空の上の方では、新月と金星が今にも消えそうにまたたいています。美しい幻想の空。

十月十一日。こんな素晴らしい錦秋の一日、原田家で二人の男の子が誕生日を迎えました。長男の小林信君は十二才。一志ちゃんは四才になりました。

目を固く閉じてまわりからの一切の関わりを拒否して自分を守る。しかししななかった一志ちゃんは超音波のような歓声を上げて園庭を駆け回っています。

原田家の夕食にお友だちをお招きして開かれた信君と合同の誕生会で、一志ちゃんと高橋ちゃんが一志ちゃんのために歌をうたい、「一志ちゃん、一緒に遊ぼうね」とお祝いの言葉を言いました。

「どうもありがとう」と嬉しそうに一志ちゃんに、二人とも自分のことのように喜んでいました。四才を迎えた一志ちゃんは、春

になったらいよいよ幼稚園です。できることはだんだん増えて随分大きくなったなあ、と思うのです。が、私の頭の中は「基本的生活習慣の自立」ということでパンクしそうです。

夕食の後片付けをしている傍に来て

「パジャマにお着替える」と言います。出来るかなと思いつつ「自分でやっておいで」と声をかけました。ひーひーブツブツ言いがら一志ちゃんは部屋へ戻っていきました。

もしかしたら、すんなり出来るかもしれない。そうだといいな。パジャマを放り出して大泣きするかも知れない。そりゃまずいな。怒りっぽい私です。すぐ頭にきて「もう！一志ちゃんわあ！」と怒鳴ってしまったらなあ。怒ってもどうなるものでもないし、怒ると子どもたちは、ますますダメになってしまふのに。高橋ちゃんも

んもそうだった。ボタンが上手にかけられるようになったのは、いつの間にかで、決して「何でこれくらい出来ないのよ！」と私が怒鳴ったからではないのです。

一志ちゃんが部屋に戻って暫くすると高橋ちゃんと一志ちゃんが困ったような顔でやって来ました。「ねえ、ゆうこさん。お着替えをやってあげるって言うても一志ちゃん「いらない」って言うよ」と口をそろえて言います。すると廊下つたいにひーひーブツブツ言っている声が聞こえてきます。

「もうちょっと。一志ちゃんがんばれ！」と竹花保母の声が聞こえてきました。そして、

「ゆうこさん。自分でやった」とベソをかいて台所へきました。「一志ちゃん、すごいね。自分でできたの」と誉めると嬉しそうに顔を崩します。パジャマのボタンが掛け違っていたとしても、それはもう、自分でやったのですから素晴らしいではないですか！「一志ちゃん、高橋ちゃん、弟っす！すごいんだねえ」と言う。二人も嬉しい顔に崩れてしまっています。

一志ちゃんもこんなことを繰り返して、いろいろなことができるようになっていくのでしょう。

子どもたちの伸びてゆく力ってとても素晴らしいのです。その若芽を私は絶対者のような態度で抑えつけているのではないかと、恐れます。前へ進めず立ち止まって、子どもに、必要な手助けとして、ちょっと後ろから押してあげられたらいいなと思います。

一番星から何番星かが空にかかるまで遊ぶ子どもたちです。

園庭では一志ちゃんと高橋ちゃんが軽快に二輪車を乗り回しています。一志ちゃんは三輪車に跨がってペダルを踏むのですが、ちっとも動きません。ついにはその三輪車を引きずっていきます。その傍では、一才年下の信子ちゃんが颯爽と三輪車をこいでいきます。人も子どももまざまざです。

元気に外を駆け遊ぶ子どもたちに、風はもう冬の色を塗っていきます。

そして、光の子どもの家に四回目のクリスマスがやってきます。

現場から

光の子らしく 14

岩崎 まり子

六月十九日、燦ちゃんたちの通っている幼稚園で、父親参観がありました。「もし都合がついたらお出で下さい、ご連絡をお待ちしています」なるべくお父さんの負担にならないようにという、光の子どもの家の鉄則を意識しながら、ギリギリの線で来て欲しいVという子どもの願いを、少しでも代弁できるよう、担当者思いも重ねて、燦ちゃんのお父さんにも手紙を出しました。

そして、二週間。何の音沙汰もなく過ぎました。指導員にお父さんの代理で出席してもらったのかなと思っていました。

十九日、準備して指導員と一緒にでかけようとしていた登園直前に仙道家の電話が鳴りました。燦ちゃんのお父さんからです。

「燦ちゃん、お父さん、今日きてくれるって！」

「やったあ！」

思わず燦ちゃんの歓声が・・・

誰もがみんな諦めていました。燦ちゃんの参観日。喜びは仙道家を超えて光の子どもの家全部に広がっていきました。みんなから、

「燦ちゃん、よかったね」と喜ばれ、少し照れながら燦ちゃんの笑顔が輝いていました。

どの子どもにとっても、親の来訪は嬉しく、誇らしくも輝かしいことなのです。目の輝き、口もとの喜び、顔や身体全部に華やかとも言える表情を見せます。そんな状況に立ち合う他の子どもも、担当者だけではない他の職員も、嬉しいことなのです。

「あつ、〇〇ちゃんのお父さんが来た！」

「〇〇ちゃん、嬉しそう、よかったね」

一緒に喜び、嬉しさを級数倍にしてくれる子どもたちの寛容さには、しばしば感動させられます。

しかし、子どもたちの心の深いところでは確実に大きな揺れ

があるのです。

家族の来訪の多い日曜日のある夜。就寝前に私の背におぶさりながら萌季ちゃんが泣きまわりました。

「萌季ちゃんのお父さんはね、日曜日でもお仕事なんだって」

△来て欲しい！でも来なかったV何とも言い難い萌季ちゃんの思いを、広くもない背中にしりと感じました。私の足りないことは勿論ですが、職員として仕事として、子どもと隣合うことそのものの足りなさを申訳なくも痛感しました。

親は自分の子どもだけを絶えず見つめています。子どもの一挙一動を見守り、子どもは、その目のいろに紛れもない親の愛を見るのでしよう。自分だけが一番に愛されている——独占できる愛——それを体験し確認して初めて、自分の生を肯定し、現実を受け入れられるのではないかと思います。

独占できる愛。子どもたちが熱病のように切望し、それを身をもって感じていくプロセスの中に、私という存在は在り得るのだろうか。少なくとも、今の私では、存在し得るという自信はないのです。

子ども自身が了解できる△独占できる愛Vを与え得る存在は、親だけではないだろうかと思いつてしまふ今日この頃です。

三年目、四年目と、経験年数が重なる程、△できないことVばかりが見えてきて、それが加速度的に増えていくように思われます。その度に、自分は、子どもと隣合うことさえ許されない存在なのではないかと、消え入りたいたい気持ちになります。

しかし、もう三年も子どもたちにしてやれなかった△しなればならないVことの累積は、私の責任として消えることはありません。せめて、子どもたちが独占できる愛を経験できるよう、子どもとも思いを重ね合う努力をしていかなければ・・・

担当保育は、様々な思いを託し神経質に言葉を選びながら、親や家族への便りをつづります。

——疑うことなく独占できる愛が、誰にも存在し得るよう心から祈ります——

自立 そのII 高山嬉の場合

菅原 哲男

高山嬉は、生後1年数ヶ月から五才になるまで乳児院で育った。大人や人との安定した関係を殆ど経験することがないまま、光の子どもの家へやって来た。

想像もできない入所の時の「不安」を少しでも緩和しようと入所前の面接をして、光の子どもの家の情報を伝えている。その面接時に倉沢保母は「こんにちわ！ここに座って・」と促しても乳児院の保母さんの陰にかくれて動こうとしなかった。この生活に素直に馴れてくれるか心配である。とケース記録に記している。

一ヶ月後に提出した養護計画に「我慢を強いられることが多かったことで、充分甘えられないための欲求不満から不安定な情緒の揺れが見られる。充分甘えを受け入れ、情緒の安定に特に配慮していく」「外遊びは好まず室内でゴロゴロし、担当保母の後を追っているだけである。他の子どもと外で

遊べるよう促していく」「一日中も尿をちびり下着を濡らす。まめに下着を替え、担当者との関係を深め、安定させていくことで克服をめざす」と記されている。

何よりも普通の子どもがする生活習慣の獲得が最大の課題であった。乳児言葉から幼児の言葉へ、食事や遊びまで実は大変な生活の大変革をしなければならなかった。担当者や家の職員を中心に嬉との生活創りに全力を傾注している様が当時の記録に満ちている。

「担当保母の公休が明日であることを知らせると、悲しい顔をしてボロボロ涙を流して泣く。一ヶ月たった頃から休みというとき必ず泣くようになった。夜も嬉の隣に寝ようと誘う。他の子に比べるとまだ消極的だが甘えることができるようになってきた。」

「幼稚園の面談。私の方から嬉の中に入り込んでいかないと、自分を出してくれないし、出せない。

虹の国から

また、やつがだけ

小一 ひろた たかふみ

九月二日 きょう、学校からかえってくると、すがわらせんせいが「やつがだけにいくぞ」といいました。びっくりしました。夏休みのときは、もうちょっとのところでかえってきました。こんどはつべんにのぼって、はたをたてたいとおもいました。

九月二日 きょう、ぼくは、やつがだけのてんぐだけにのぼりました。いわばかりのみちでとてもつかれました。とちゅうでやだなとおもいました。

みんなはがんばっていたので、ぼくもがんばりました。てっぺんにはたをたてて、みんなでばんざいとなんかいいました。

てっぺんでごはんをたべました。とてもさむかったけど、ときどきいたいようがでけると、あったかかったです。

雲が上にも下にもありました。

つかれたけど、またのぼりたいです。

九月二日 きょう、いっしょの会のみんなで、にわの草とりをしました。のくさきくんに「てんぐにのぼったんだから、ちゃんとやれよ」といわれました。いわれたとき、やだなとおもいました。べんきょうや草とりをがんばって、また山にいきたいとおもいました。

うまく自己表現ができずイライラしたり、大声で怒鳴ってしまうことがある」「陰日向のない明るいやさしい子ですね」「音楽、絵画などは苦手で体育は大好き。文字にも興味を持ち始めた」「今始まったばかり、あせらないで、じっくり行きましょう」と言われる

「保母の休日に嬉と外出。『パンとごはんとおそばのどれがいい』と尋ねると、やっと『パン』という。これで昼食を決定。新宿の街での数時間、絵本を買いチョコレートパフェを食べ、目を皿のようにした嬉であった。このような外出を今後も心掛けていく」（いずれも二三月後のケース記録）

この頃、行方不明であった実母が再婚し、養父になった人が嬉を知っていることなどが判明し、訪問して調整を開始する。親のための子ではなく、子どものための親へと意識の転換を図り、養育に参加してもらうよう働きかける。四年振りの再会。今後の生活の方向を話し合いながら調整を続けた。月に一回の来訪、電話連絡もある。母や父の入院時の見舞等や行き来

も少しずつ始め、嬉の将来のために努力していこうという話ができるようになってきている。

六ヶ月後に修正した養護計画に、「精神的にもある程度満たされてきたようである。親の来訪が遠くになると腹痛を訴えて情緒の揺れを表す。心をくばりスキンシップなど、受容の配慮を充分して防ぎ、乗り越えられるように促していく。やさしさ、負けず嫌い、我慢強さを更に育てていく」と情緒欄に記されている。

幼稚園の卒園式の夜、「学校に行ったら、お勉強と走るのを頑張ります」と家のみんなのお祝いに決意を表明して応答した。

春休みには担当者とジャックと豆の木ミュージカルを楽しみ、両親から贈られたランドセルを背負って園庭の枕木の舗道を走り回って小学校入学を待ち望んだ。

乳児院の赤ん坊との生活から、一年間で嬉は小学校入学を迎えた。担当者と家の職員を中心に生活を創り、幼稚園での細かい心配りと、何よりも差別を感じさせない先生方の熱心な訓練・教育は入学

をそれほど心配しなくてもいいと思わせるに十分なものであった。

一いよいよ小学生の仲間入り。

幼児から「男の子」と変化しつつあり、心身ともに成長し逞しさが感じられる。やさしく頑張り屋である。排泄は完全自立。

自己表現が未熟である。考え、思い、意志などを相手が理解できる言葉で伝え、直接的行為によるトラブルや屈折した情緒の問題を解決することができるよう促していく」「昨年度の個別養護計画の冒頭に倉沢保母は記している。

入学式には両親が来た。嬉は両親と一緒に出かける。式に間に合うように担当者がいく。記念写真には母が添う。帰って両親と食事。祝福され、関わる者からも自らも期待に満ちた第一歩となった。嬉は学校から帰ると先ず宿題をしないと遊ばない。二年生の現在もこれは続いて習慣化している。

本を読む力に少々欠けることが現在までの学習上の課題である。GOGO会の作業や、妙義山、八ヶ岳などの健脚コースを踏破しての征服行などはリーダーである。

お正月やお盆などの時に帰省できない嬉は、担当の倉沢保母の川崎の実家へ帰って数泊する。

担当グループの中で家に帰れないのは嬉だけである。担当者宅にはもう五回ほど行っている。倉沢保母の弟さんに迎えに来てもらってひと足さきに倉沢宅へ昨年末には行った。倉沢が寂しくなるほど心配もせずに出かけ、倉沢の家族たちと叱られたり楽しんだりしてきた。特に、お風呂は弟さんと、寝るのはお父さんというふうな男性像を求めていると記録にある。

現在、嬉は普通の二年生として生活することに支障は全くない。人が自立を獲得していくには、全人格を徹底して引き受けてくれる存在が必要なのである。帰る場所があるから出かけられ、安心して休めるから立つことができるのである。

徹底的な受容を中心にした生活と、肯定に満ちた期待、舞い上がるような賞賛と評価など、差別しない教育的配慮のなかでの訓練によって、初めて子どもは自立へ歩み出していく。

日誌抄

九月十六日
十月十五日

九月十九日 江森理容店の整髪の

ご奉仕。毎月、三年を超えて。

二日 荻野さんより金魚を沢山
いただく。玄関横の池に。感謝二日 入念に夏休みの計画をし
て取り組み、納得のいく実施。一回り以上大きく遅く確実に
成長の跡を見せて二学期を迎えGOGO会の中心の二年生に、
手心えと心中密かに期待していたが、学校からの連絡は変化な
し。授業にならない。困り者

手に負えない。などなど・・・

この日、六年の二名と二年生四
名とで、夏休みに途中で断念した八ヶ岳の天狗岳の征服を目ざ
して夕食後に出発。信州佐久町のベースキャンプ地になったよ
うな倉沢保母の親類の旧家へ。

二時半到着。興奮を抑え就寝。

二日 八時半出発。白駒池登山
口から高見石―中山峠―天狗岳を目指す。初体験の六年生
も男の意地や高学年のプライド

を見せ、よく頑張る。二年生の

摩文、加津子は往も復も何回か
泣いてしまふ。嬉はいつになく不調の前半だが後半、歯を食い
しばって意地を見せる。滋はマイペースで。予定通り2600
mの上空で屋敷。遙かに日本アルプスを遠望。雲を敷き雲を頂
き雲が飛び日が光るなか、皆で作った旗を頂上の認識標に並べ
て立て、万歳万歳。感動の涙さえ見せる子どもたち職員四名
復りは来た道を戻るが途中先導の野崎が間違え黒百合ヒュッテ
で小休止、バッチを付けて記念とす。白駒池の登山口へ戻った
のは山影もとつぷり暮れた一八時半。踏みしめた岩山道は健脚
の大人の二日分。行き交った登山者はみな重装備。誰もが驚嘆
する子どもたちのガッツと力。充足感と疲労感の快さを満喫。
六年生三名はそのまま夜行列車で。二時過ぎに光の子どもの
家到着。倉沢お母さんにはまたお世話になりました。感謝。
この力を何故学校で発揮できな

ないのだろうか・・・

二日 前社珠弥。脳髄膜炎で

十屋小児科へ入院。そのまま県
立小児医療センターへ転院。何故に前社兄妹の大病難病は。
断食をして回復を祈る職員も。十月一日 この日まで意識不明だ
った珠弥の意識が戻り回復へ。十三日に退院。快癒。感謝。
・関東商事の栗原氏、毎月のお励

ましの訪問。感謝。

二日 原道小学校運動会。校舎建
替工事で手狭な校庭で。走り、演技、役割を果たす子どもたち
の美しい群像に秋日が注ぎ・・・八日 大根根幼稚園運動会。朝
早くから応援席の確保に、お弁当作りに大活躍の職員、遠くか
ら駆けつける親たち八名。真剣な子どもたちの演技に雨も終了
まで遠慮して。フリーフリー？十一日 埼玉県児童福祉施設職員
研修会で石毛保母が問題提起。十四日 幼稚園保育参観。
・大宮の関根さんよりケーキを沢山。ありがとう。おいしかった。
十五日 千葉の泉田さんよりホンダ・アコードを頂く。よれよれ
車の中に強力な援護。通院に登
園に大活躍。感謝。(くら)

反射光

今朝初氷が園庭
の水溜まりには
りました。時は

私たちの遅々としたとりくみを持
ってはいけません。もう今年もあ
と一ヶ月を残すのみとなりました。
この年もおかげさまで、願った以
上のとりくみを展開することがで
きたことをご報告します。○建物の
引渡の時がその建物の最高だった
らつまらない。と設計の責任者の
増田氏に言われ、資金の都合でそ
うしなければならなかった子ども
の家の周囲や内もだんだん整備さ
れてきています。○子どもたちも小
学校から中学への準備を始めてい
ます。○常時100%の入所率を維持し
ています。○十一名の幼稚園通園を
確保しました。○二名が家に帰りま
した。○家族関係の調整を施設内外
に展開しました。○定員外職員を三
名確保して子どもたちの処遇の向上に
努めました。○「光の子」遅れるこ
とがありました。○二一号まで四千
部を発行しました。○これらの活動
のすべてがみなさんのお力によっ
て保障されましたことを重ねて感
謝します。○聖誕の祝福を！(哲)